

# 大峰奥駈道を歩く。

—洞川温泉から前鬼まで—

報告者 Fka

○山行期日 2017年6月1日～3日

○メンバー Fka 1名

今年の3月下旬。一人でテントと食糧を担いで、奈良県・吉野に行きました。大峰山・奥駈を縦走するつもりでしたが、思わぬ大雪のため大天井ヶ岳で撤退しました。今回、再チャレンジです。もう雪は無いので避難小屋泊まりで計画しました。

## 6月1日(木)

11時。新大阪着。14時 近鉄下市口駅着。15時38分 バスで洞川温泉「さら徳旅館」着。この温泉には20件もの旅館があります。大峰講の人々が泊まりに来るようです。三河・京都・大阪・奈良・広島・兵庫など関西の講が多いのに驚きました。富士講は今や滅びた感じですが、大峰講はまだ生き生きとしています。関西の山岳宗教圏は豊かに続いています。ここの旅館街は室町時代から続いているそうです。歴史が古く、現在も続いている文化に圧倒されます。「陀羅尼助丸」という室町時代からの胃腸薬の製造元も多くあります。

ここの旅館街は店じまいが早いので、開いている鮎屋で夕食。朝食用のいなり寿司を弁当にしてもらいます。8時就寝。龍泉寺という役行者ゆかりの寺があるのですが今回はパスします。

## 6月2日(金)

4時起床。激しい雨が降っています。TVで天気予報を見ると9時頃には雨は上がるそうです。修験のエリアです。朝から法螺貝の音が聞こえてきます。激しい雨の中、6時20分出発。大峰大橋を渡ります。ここに「女人結界」の大きな碑が建っています。日本で今でも「女人結界」を主張しているのはこのエリアだけのようです。

<大峰大橋の「女人結界」の碑>→



本松茶屋辺りで鹿の赤ちゃんが横たわっていました。生まれたばかりのようです。まだ立てない様子です。近くで親が観ているのだらうと思い写真だけ撮りました。



<道に横たわる鹿の赤ちゃん>→

しばらく登ると稜線に出ます。洞辻茶屋です。3月に大雪の中、たどり着いた所です。懐かしいです。ここから奥駈道の続きです。ここで修行僧2人と会いました。彼らは一生懸命像にお経を唱えています。修行の場であることを感じました。

9時30分。霞に包まれた山上ヶ岳（1719m）の手前の宿坊「喜蔵院」で休みます。「味



噌汁」（300円）を頂きます。鍋に味噌汁が入っています。驚きました。どんぶり3杯位の量です。具が全くない。お椀に麩が3つと糸昆布が少し入っているだけ。ここに熱々の味噌汁を入れて呑むと、冷えた身体に染み渡ります。

←<宿坊「喜蔵院」の味噌汁>

葉書にスタンプを押したかったので聞くと「御朱印しか無い」と言われました。一押し300円。今は御朱印ブームで人気がある

そうです。女性は「結界」なので男性に頼んで御朱印を押してもらおうそうです。葉書10枚で500円に負けてもらい押してもらいます。「葉書に御朱印を押すのは初めてだ」と言われました。9時30分。山上ヶ岳の山頂には巨大なお堂が建っていました。凄い宗教的エネルギーです。

13時。大普賢岳（1779m）。ここでランチ。ベーコン・チーズサンド、ミネストローネを頂きます。暖まります。この辺りは石楠花の美しい原生林です。見事にピンクや紅の花が咲いています。

＜大普賢岳のツツジの群生＞→

雨上がりのブナの新緑が美しい。道は安定し、道標もしっかりしています。風は強いが、原生林は明るく気分よし。ここで初めて、単独行の方とすれ違いました。彼は新宮から歩いてきたそうです。14時40分。七曜岳（1574m）。この辺りはアップダウンが多く、鎖やロープを握りながら登ります。古来からの自然。苔むした古木。雨上がりの森は美しい。



時々修行場があります。太い木の根元に修験者が置いた木のお札が沢山置いてあります。



奥駈にはこのような修行場が90カ所ほどあるそうです。行者還岳（1546m）。この辺りの道も手強い。

→＜修験場のお札＞

16時5分。行者還岳避難小屋着。この小屋は清潔で素晴らしい。銀のマットや毛布も備わっています。村が経営しているそうです。残念ながら水場は枯れていました。早速シュラフを広げ、お湯を沸かし「葱生姜塩ラーメン」を作ります。ホットウイスキーが腹に滲みます。今日は10時間歩きました。

18時頃、単独行の男性が到着。吉野から来たといいます。今夜はこの小屋に2人だけです。蠟燭を一本灯します。この光の存在感が嬉しいです。

## 6月3日（土）

4時起床。シュラフを畳み、お湯を沸かします。ストレッチ。ホットチョコレートを呑み、蜜柑1個を食べます。

### ＜立派な行者還岳避難小屋＞→

5時30分。出発。晴天です。風が強いが気分よし。6時50分。行者還トンネル西口からの出合い着。ここから弥山に向かう道です。私が100名山を登っていた2008年5月頃。この道を通って弥山に登りました。あれから9年。懐かしい道です。人が多く歩いているので道が固まっています。



8時40分。弥山（1895m）。山頂小屋で水を3L買います。1000円でした。有り難い。朝食の「葱生姜塩ラーメン」を作ります。この山は女性が目立ちます。この辺りは「女人結界」ではないのです。ここから八経ヶ岳に向かいます。ここにはオオヤマレンゲを鹿の食害から守るためフェンスが設置されていました。

10時。八経ヶ岳（1914m）。この山は関西最高峰です。シロヤシオの群生が咲き乱れ、花を満喫しました。12時。楊子ヶ宿の避難小屋着。この小屋も清潔で気分が良い。トイレが無いようで「大便是水場の近くでするな」と貼紙がしてあります。仏生ヶ岳（1804m）近くの「鳥の水」に寄りますが水が涸れています。弥山で水を買っておいてよかったです。

14時55分。釈迦ヶ岳（1799m）着。はしご、鎖が続きます。馬の背などという高度感もある道もあります。頂上には大きな観音様があり驚きました。大正時代に信者がこれを担いで運び上げたそうです。凄まじいエネルギーです。



＜釈迦ヶ岳山頂の大きな観音様＞

弥山が遠くに眺められ、今日のトレイルが迎えます。360°の良い眺めです。16時。深  
仙宿。ここにも水場があるので覗いてみると枯れています。水は溜まっていますが沸かさ  
ないと飲めません。このルートの水場は全滅でした。水を確保しておいて大正解でした。  
太古の辻。ここに奥駈の半分という案内が出ています。ここから「前鬼」に向かって下り  
ます。階段が多く、急な道が続きます。

17時50分。「前鬼・小仲坊（おなかぼう）」着。住職さんが風呂を勧めてくれます。  
まさか風呂に入れるとは思っていませんでした。有り難い。食事も旨し。他に7人ほどの  
泊まり客。5人が女性。明日釈迦ヶ岳に登るそうです。あと一人の男性も釈迦ヶ岳に登る  
そうです。もう一人の男性はここから奥駈を新宮に向かうそうです。今日は12時間の充  
実した歩きが出来ました。

夕食後、女性グループのリーダーのAさんに「女人結界」について話を伺いました。Aさ  
さんは30代。奈良にお住まいの女性です。今でも山上ヶ岳は「女人結界」が生きているそう  
です。見つかると思われて叱られるそうです。なので、女性は頂上の宿坊に住職が居ないと  
き（10月から4月の間）に登るそうです。彼女は今年2月に登ったそうです。洞川温泉奥  
の「女人結界」の大きな碑が建っている大峰大橋で、御神酒をたっぷりとふりかけ、塩を  
撒いてお清めして橋を渡ったそうです。しかし大雪のため今回は洞辻茶屋で断念。またチ  
ャレンジすると言っていました。私は「女人結界」のエリアはここしか知りませんが、江  
戸時代は殆どの日本の山は「女人結界」でした。富士山も勿論「女人結界」でした。この  
タブーをどんどん破ったのは明治の頃に来日した御雇い外国人の奥さん方だったそうです。  
こんな「結界」は早く形骸化して欲しいと思います。全ての人に、この素晴らしい自然と  
文化を解放して欲しいと思います。

小仲坊住職さんの話は面白かったです。前鬼は役小角の従者であったそうです。そこから  
数えて彼は61代目。1300年の歴史を持つ小仲坊を守っています。気の長い話ですが、江  
戸時代までは五軒の前鬼さんがここで暮らしていたそうです。今では小仲坊一軒しか残っ  
ていませんが、当時の田畑の跡や住居跡の石垣などが今でも残っています。修験者の道。  
それを支える地元の方々。宗教と文化の香が濃い奥駈道。堪能しました。次回は新宮から  
前鬼まで歩きたいと思います。